

## 掟としての愛

ヨハネによる福音 15:9-17

（そのとき、イエスは弟子たちに言われた。）「父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた。わたしの愛にとどまりなさい。わたしが父の掟を守り、その愛にとどまっているように、あなたがたも、わたしの掟を守るなら、わたしの愛にとどまっていることになる。

これらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたの内にあり、あなたがたの喜びが満たされるためである。わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。わたしの命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。もはや、わたしはあなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人が何をしているか知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼ぶ。父から聞いたことをすべてあなたがたに知らせたからである。あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るようにと、また、わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである。互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である。」

### 説教

マタイ福音書の22章にこうあります。（平行箇所マコ12:28、ルカ10:25）

#### ◆最も重要な掟

ファリサイ派の人々は、イエスがサドカイ派の人々を言い込められたと聞いて、一緒に集まった。そのうちの一人、律法の専門家が、イエスを試そうとして尋ねた。

「先生、律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか。」イエスは言われた。「『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人

**を自分のように愛しなさい。』律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。」** マタイ 22:34-40

イエスは、主を愛し、隣人を自分のように愛しなさい、これを二つの掟といいました。律法自体を目的にしてしまっている当時のユダヤ社会の律法主義の現状を批判して、神の律法を二つの愛、“神への愛、隣人愛” にまとめあげました。それがイエスが説いた愛であり、福音でした。

イエスの掟（二つの愛）を守るだけで無条件に赦される、罪はもうない、神の国にいける、これがイエスの教える福音です。

神への愛を（ヨハネ福音書では）

「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」⇒「わたしの愛にとどまりなさい」という言い方に、

隣人愛を

「隣人を自分のように愛しなさい」⇒「互いに愛し合いなさい」と言い換えています。

**父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた。わたしの愛にとどまりなさい。** ヨハネ 15:9

父がイエスを愛された⇒わたしもあなたがたを愛した⇒わたしの愛にとどまれ⇒これが神を愛することと同様な意味をもつ、という解釈です。

わたしの愛にとどまり、お互いに愛し合いなさい。この二つがイエスの律法解釈すなわち「福音」です。たったの二つ、福音はシンプルでカンタンです。この見かけのカンタンさから、いろいろな勘違いがおきて過ちや混乱をまねくことがあります。でも福音はシンプルにできていますからすぐに戻る・修正することができます。「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽く」さなくても、ブドウの枝につながっていればいい、ということであれば枝をみつけてつかまればいいだけです。イエスさまは愛してくださるから、わたした

ちが忘れていても、実はそばにいてくださるからそこに戻ればいいだけです。隣人を自分のように愛する、お互いに愛しあう、これができなくて苦しむこともあるでしょう。そんなときは愛しているフリをすればいいんです。シンプルにできている福音ですから型通りに真似をすることもカンタンにできるはずです。イエスさまの命令なんですから、見よう見真似でやってください。福音の力が働いて真実にかわっていきます。

**互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である。ヨハネ 15 : 17**